

おひざのうえで 2026⑤

(副園長の子育て応援 Letter)

「嬉しい再会」

せんりひじり幼稚園 副園長 安達かえで



暑い暑い夏でしたね。(まだまだ厳しい暑さが続きますが……)ご家庭でのお子様とのお出かけも、大変だったことと思います。「はやく2学期が始まってほしい!」という心の声が聞こえてきそうでした。皆さま、本当にお疲れさまでした。

夏休みの間、ホームクラスの子どもたちは、朝の少し涼しい時間や夕方の影が伸びる時間には外に出て遊び、ホールでサーキットをしたり、他の保育室を利用したりしながら、アトリエ、積み木やクーゲルバーン、光の探求など、先生たちと作ったさまざまなコーナーで遊んでいました。また、「お仕事プロジェクト」にも取り組んだようです。保育園の小さな子の朝の支度を手伝ったり、お昼寝のお布団を敷いたり、トントンしてあげたり、水やりや虫のお世話をしたり……。さまざまな仕事の依頼があると、子どもたちは張り切って取り組んでいました。お仕事をすると「ひじりん通貨」がもらえます。そして、たまったひじりん通貨で何をするかを、家族(グループ)ごとに相談して、パフェを作ったり、流しそうめんをしたり……。「自分たちで働いて、自分たちで考えて、やりたいことを実現する」。そんなプロジェクトです。

今、全国の園で、預かり保育(ホームクラス)の保育のあり方が話題になることが増えています。教育時間の保育との連携、担当職員同士の情報共有、時間の使い方、環境の構成など、さまざまな課題を抱えている園も多いようです。

そんな中、この夏、ホームクラス担当のメンバーで、全国幼児教育実践学会にてポスター発表を行いました。

題名は、「預かり保育における『ヒマ(ゆとり)』と『異年齢』が生み出す豊かな遊びの世界～見守りの専門性を支える対話的会議と情報連携～」です。

せんりひじりでは、2時までの教育時間と、2時以降の預かり保育が相互に影響し合うことで、子どもたちの豊かな遊びや育ちが生まれています。午後の「十分な時間(ヒマ)」と「異年齢の関わり」が、偶発的で創造的な遊びを生み出していること、そして、その遊びを支えているのが、預かり保育担当者同士の対話による子ども理解や、多面的な情報共有、子どもを「見守る」専門性であることを、実践事例から整理しました。ポスター会場には、1,000人近くの参加者がいましたが、私たちの預かり保育の実践に興味を持ってくださる方も多く、たくさんの方々と意見交換をしたり、ご質問にお答えしたりしながら、交流することができました。



その後、文部科学省の委託調査を受けた研究会の先生方が、せんりひじりの預かり保育の視察に来られました。充実した保育内容や職員同士の連携について、たくさんのお褒めの言葉をいただき、子どもたちへの

関わり方や、保育を支える仕組みについても高く評価していただきました。こうした機会を通して、日々、先生たちが積み重ねている保育の意味を、改めて感じる夏となりました。

そして、実践学会の日に、とても嬉しい出来事がありました。私が親子プレイルームを担当していた時の園児のお母さんが、会場で私を見つけて声をかけてくださったのです。その時のお子さんは、もう就職される年に……。お母さんは現在、広島幼稚園で子育て支援に携わっておられ、この学会でも口頭発表をされていました。そして、「保育の原点は、せんりひじりのプレイルームです」と言ってくださったのです。長い年月を経ても、あの頃の親子との時間が、今につながっていることを知り、胸がいっぱいになりました。

さて、我が家はといえば、今年も長男家族と長女家族、総勢 10 人で西表島へ旅行に行きました。孫たちとの幸せな旅行でしたが、昨年に引き続き、またまた今年も台風巻き込まれる事態に……。いつも嵐を呼んでくるのはいったい誰なのでしょう(笑)。

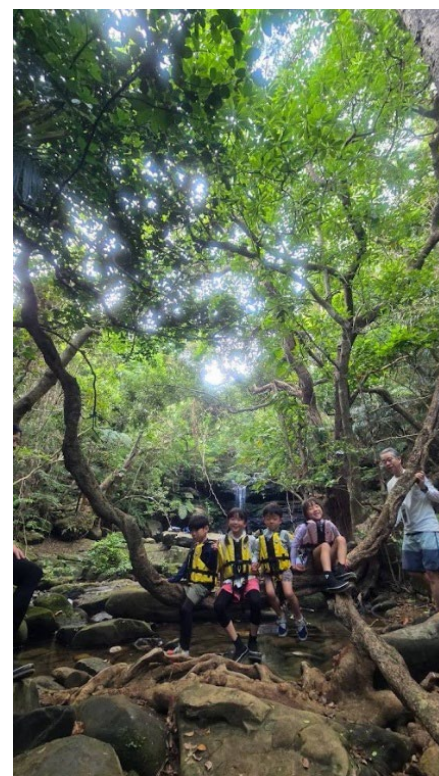
前半は美しい海でシュノーケリングをしました。私はそろそろ年齢制限が気になる年なのですが、年齢を忘れて思い切り海に入って楽しみました(笑)。サンゴに藻が生えているところに、10 匹近くのウミガメが大好物の藻を食べに来ていて、孫たちはカメと一緒に泳ぐことができました。(怖がって船から降りない孫もいましたが…)水中眼鏡をのぞきながら、カメがムシャムシャと藻を食べる様子を嬉しそうに眺めていました。



次の日は滝までトレッキング。途中、見たこともない不思議な植物や虫に出会うことができました。ところが、その後、風が強まり台風がやってきたため、船が欠航。島に 2 日間閉じ込められることになりました。じたばたしても船は出ませんから、開き直って「三線教室」に参加したり、草や種を使ったクラフトをしたり、砂浜でシオマネキをたくさん見つけたりしました。自然は子どもたちに多くのことを教えてくれます。生命の不思議や自然体験がこれからの人生のどこかのタイミングで、孫たちの生きるヒントになるだろうと想像しながら、大切な時間を過ごすことができました。

2 日後、無事に石垣島へ渡ることができ、市場をぶらぶらしていると、なんとまた、私の親子プレイルームに通ってくださっていた親子が声をかけてくださいました。立派な大学生になった卒園児親子と感動の再会でしたが、お母さんが、「この子を育てるのが難しかった時に、たくさん話を聞いてもらったから、今があるんです」と、感極まって話してくださり、私の方が感動して泣きそうになりました。

嬉しい再会に恵まれた夏休みでした。



さあ、2 学期は実りの季節。子どもたちが、どんな姿を見せてくれるのでしょうか。ますます子どもたちの成長が楽しみです。